

ペットの防災対策

災害は突然起こります。いざというとき、ペットを守れるのは飼い主だけです。まず飼い主が無事であること、そして避難する場合にはペットと一緒に避難場所に避難すること（同行避難）が基本です。ともに安全に避難でき、周りの人へ迷惑をかけず、安心して過ごすためには、日頃からの心構えと備えが大切です。



◇平成23年9月発行パンフレット「備えよう！いつもいっしょにいたいから」より◇

住まいの防災

住まいを災害に対して強くしておくことが、人とペットの安全にもつながります。

- 住まいの耐震強度の確認
- 家具の固定、転倒・落下防止
- 飼育ケージの固定、転倒防止（屋外飼育の場合は外塀やガラス窓の近くを避ける）
- ケージなどペットの避難場所（隠れ場所）の確保

健康管理としつけ

普段からワクチン接種など健康管理に注意し、動物の体を清潔に保ち、必要なしつけをしておきましょう。

- 予防接種や外部寄生虫の駆除
 - ブラッシングで抜け毛をとる
 - キャリーバッグやケージに慣らしておく
 - 「マテ（制止）」や「オイデ（呼び戻し）」や決められた場所での排泄などのしつけ
- ⇒詳しくは4・5・6ページ

家族の話し合いやご近所との連携

さまざまな場面を想定して、家族やご近所、飼い主仲間と防災について話し合っておきましょう。

- 家族間の連絡方法や集合場所
- ペットの避難方法や役割分担
- 留守中の対処方法と協力体制
- 緊急時のペットの預け先の確保

所有明示の徹底

ペットと離れ離れになったときのため、迷子札とマイクロチップなど、普段から身元を示すものを二重でつける対策をとりましょう。

- 鑑札、狂犬病予防接種注射済票（犬の場合）
 - 外から見える迷子札（鳥は足環など）
 - はずれる心配のない身元証明のマイクロチップ
- ⇒詳しくは3ページ

情報収集と避難訓練

住んでいる地域の防災計画を確認し、避難場所までの所要時間などを確かめておきましょう。

- 避難場所までの経路と所要時間
- 危険な場所と迂回路の確認
- ペット同行避難訓練への参加
- 動物が苦手な人への配慮

人と動物の安全確保と同行避難

災害が発生したら、まず自分の身の安全を確保し、落ち着いてから自分とペットの安全を守りましょう。

- 情報を集めて避難場所への避難が必要か判断
- 犬はリードや胴輪をつける（緩んでいないか確認）
- 猫や小型犬はケージやキャリーバッグに入れる
※キャリーバッグの扉はガムテープなどで固定する
※布などで包んで暗くして安心させるとよい

ペットのための備蓄品

ペットの災害時の備えは基本的に飼い主の責任です。

- 療法食、薬（必要なペットには必ず用意）
- 5日以上以上のフードと水、食器
- 予備の首輪、リード（伸びないもの）
- 飼い主の連絡先やペットの情報を記録したもの
- ペットシーツ、トイレ用品、洗濯ネット（猫の逃げだし防止など）、好きなおもちゃ、においのついたタオル、ブラシ、ガムテープ、新聞紙、ブランケット（ペットの体を包める大きさ）などもあると便利

避難所と仮設住宅

動物が嫌いな人、動物のアレルギーを持つ人、幼い子供など多様な人々や動物が集まるため、ストレスからペットも体調を崩しやすくなります。

- 飼い主は普段以上に周りの人へ配慮する（特にふん尿に関するトラブルが多い）
 - 世話やフード確保など飼い主の責任の下で行う
 - 飼い主同士が協力して助け合う
 - 支援物資や情報を共有する
 - 獣医師やボランティアによる支援を活用する
 - ペットの体調に気を配る
- ⇒詳しくは6・7ページ